

## いつ来るかわからない災害

～お互いの助け合い～

峰岸下自主防災会  
峰岸下自治会



## これまでの背景

- 大型台風による甚大な被害  
※自治会内でも2件の風水害が発生
- いつ起こるか分からない地震



地域一丸で取り組む必要

峰岸下自治会では、令和元年から6年計画で、独自の防災対策を行っています。

## 地域の災害リスク



## 「自主防災会 検討会議」の発足

検討組織：自主防災会 検討会議委員 22名  
(防災指導員14名、自治会3役+自治会役員5名)  
※令和6年4月現在

看護師 電気技師 一級建築士  
保育士 土木技師 機械技術者  
ヘルパー 測量士 水道設備技術者  
教員 行政職員 警察官 ほか

地域の人的資源活用

① 計画の原案を作成



② 峰岸下自治会に提案



③ 総会・定例会で決定

## 自治会員からの協力(寄贈)

皆様からの善意により、多くの  
防災資機材が集まりました。

- ・テント、養生シート  
※建築業者からの寄贈
- ・トラック用ジャッキ(救出用)  
※自動車整備工場からの寄贈
- ・大鍋、寸胴鍋、ステンレスパット  
(炊出し用) ※私物の寄贈
- ・子ども用便座(仮設トイレ用)  
※元保育士より寄贈

ほか多数



## 令和7年度以降の取り組み

県営峰岸団地建替工事  
令和14年度完成予定

### ■防災施設整備

- 県営峰岸団地建替事業による防災広場  
かまどベンチ、防災バーゴラなどの整備を県に要望  
※峰岸団地自治会・峰岸上自治会と協力
- 峰岸ふれあい公園  
マンホールトイレ・かまどベンチなどの整備を市に要望  
※峰岸上自治会と協力

### ■防災倉庫の確保

- 建替後の「新・峰岸集会所」内に防災倉庫を確保  
峰岸団地・峰岸上自治会と協力し県に要望  
※まちづくり推進条例に基づき意見書提出(R3.12.28)、再意見書提出(R4.2.21)



## 地域資源の活用

## 民間事業所との協力体制づくり

### <災害協力協定締結>

#### ■(株)丹野設備工業所 令和2年2月～

- 「災害時協力井戸」から生活用水をくみ上げ、タンク車に貯水 → 給水車で自治会内へ給水
- 緊急一時避難場所の投光器・発電機の提供

#### ■そんぼの家伊勢原 令和2年11月～

- AED使用の合意

#### ■榎太陽建機レンタル 令和4年6月～

- 大型発電機のレンタル 【災害時協力井戸(深さ48m)から生活用水を取水】

今後、ほかの事業所とも協力体制を進めていきます。

## 防災協力事業所との協力体制

### ■平常時の協力

- ①防災訓練への参加(給水班2名)
- ②地域の防災研修会への参加  
(能登半島地震の被災地 輪島市での活動報告)
- ③施設の提供(事務所の一部を防災訓練本部として借用)

### ■災害時の協力

- ①労務の提供(給水活動時の人員+車両)
- ②物資の提供(生活用水)
- ③資機材等の貸し出し(発電機、給水タンク、車両、投光器)



災害時協力井戸から生活用水をくみ上げ、  
給水タンクに補給→各世帯に提供

## 自治会の取り組み



### ■防災施設整備

- 宝泉寺公園内に防災倉庫を新設（R1.12～）
- 宝泉寺公園の隣に土のう置き場を新設（R2.7～）

### ■緊急一時避難場所の追加

- 小山公園（R3.12）

### ■災害時協力井戸の追加

- 従来2か所 + 3（R2.2） + 1（R4.2） = 現在6か所

### ■防災訓練の実施

- 安否確認カード（令和2年9月全戸配布）を使用した防災訓練を実施（組長による安否確認）
- 民生委員や看護師、ヘルパー等による要援護者の各戸訪問
- 地元消防団（第3分団第4部）との連携（広報活動）
- 防災協力事業所の訓練参加
- 自治会内にある高齢者施設の職員が訓練に参加

## 防災ブロック図

## 小山公園避難ブロック図

20戸～30戸の単位で  
形成したブロックです。

- ・複数の組長が中心
- ・要支援者・被災者を救出
- ・峰岸ふれあい公園または小山公園までの避難誘導

● 災害時協力井戸（6か所）



## 災害時安否確認カード

### 支援者の可視化

無事な家と、支援が必要な家を  
すぐに特定できます。

市内初！



## 避難ルートマップ



- ⑩小山公園
- ①峰岸ふれあい公園  
（峰岸上自治会と連携）
- ④五霊神社  
△引自治会と連携

⑩山王中学校まで避難